

令和3年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【小中学校の部】 まとめ

日時：令和4年3月5日（土）13:00～16:00 参加者：会場 29名

場所：県立情報交流センターBig・U オンライン 70名

テーマ：「地域とともにある学校づくり 学校を核とした地域づくり
～校種で地域を考える～」

基調講演「CSだからこそ～今、求められる地域と学校の関係は～」

文部科学省CSマイスター

山口県地域連携教育推進協議会 顧問 小西 哲也 氏

1. なぜCSなの？

- ✓ 社会の変化から
超高齢化社会、予測不可能な社会を迎える日本において
⇒「人生100年時代」を豊かに生きるために、子供の頃から
つながりをつくっておく力が必要！⇒「互助」「共助」の社会を！
- ✓ 学校に求められるもの
 - ・学校は生涯学習の1つ
⇒ 社会に開かれた教育課程において、「学校は地域の担い手を育てる」、
「授業で人や社会と関わる力を育てること」が大切である。
 - ・授業は誰のもの？ ⇒ 授業は地域の文化
学校は誰のもの？ ⇒ 学校は地域の教室
 - ・人生は9回裏までである！
退職後も豊かで楽しい時間を過ごせるために
⇒知識や技能をもとに、自分で考え、表現し、判断し、
仲間と一緒に取り組む力 ⇒ 教科・学校を超えた学び
⇒人は人を浴びて人になる



2. これからの時代

- ✓ 地域と学校の間を「50:50」に
学校と地域が同じ立場で連携・協働し、子供の育成をめざすこと！
そして、大人が楽しめる活動を通して取り組もう！
- ✓ CSの充実に向けて、熟議の充実！
「協働をめざした対話でCSは成長していきます！」
- ✓ 『奇跡の学校』が証拠！
 - ・地域の方々との関わりは、子供の成長や意識の変化を促す
 - ・CSを設置した学校では地域住民の意識が変わる

令和3年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【小学校の部】 まとめ

日時：令和4年3月5日（土）13:00～16:00 参加者：会場 14名
 場所：県立情報交流センターBig・U オンライン 30名
 テーマ：「地域とともにある学校づくり 学校を核とした地域づくり
 ～校種で地域を考える～」

講演・熟議「小学校と地域の連携 ～コミュニティ・スクールの視点から～」
 和歌山県CSマイスター・有田市CS推進員 下田 喜久恵 氏
 講義・講評「コミュニティ・スクールが目指すこと」
 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 宮崎 雅史 氏

学校改革・地域改革・家庭教育

- ✓ 学校評議員から学校運営協議会委員へ
- ✓ 学校評価・守秘義務
- ✓ 社会の変化 → 求められる人材像も変化
- ✓ 課題の複雑化・困難化 → 学校だけで解決できない
- ✓ 地域の在り方 → コミュニティを再構築
- ✓ 子育てを一緒に、地域でも
- ✓ Ex)有田市：CS連絡協議会（3回/年）
→情報共有・連携・協力・充実・発展



講演：県CSマイスター・有田市コミュニティスクール推進員 下田喜久恵氏 @県立情報センター Big-U R4.3.5(土)

小学校と中学校の違い	
小学校	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任制 ・保護者の関わり合い ・群馬→小中間で異音あり、地域により違いがある。 ・女性の先生が多い。 ・文字は歩くがバス通学もある。 ・PTAの参加率が大きい。(ex)運動会の見学者 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制 ・男性の先生が多い。 ・自転車通学学生も多い。 ・安全面の課題

小中連携の課題

ひと言葉交流

津波に関する防災教育は、群馬県では和歌山県ほどはしていない。
 山形県は、CS導入年が初年度、CS専員が自校と投えるように周知したい。しり作りが大切？
 注実県も参加。CS導入にあたって研究→そのCSに
 幼稚園・公民館・小学校と熱議進めたい。等
 若手教員が増えて中間層が少ない。→CSの役割が大切？

宮崎 雅史氏より
 CSのあるorないは何の違い？教員の実態ある？
 教育課程に明確化する
 関係した教育課程
 新たな大人(の)進出と
 学校が変わるor
 子どもが変わるor

みんなで作るCS

- a. とにかく、研修の場を！
- b. 感謝の伝え方
- c. 子供を通じて
- d. 視点を変えて
- e. 融通性・柔軟性・臨機応変
- f. 意見を言う、回す
- g. 「学校運営協議会」
- h. アンケート項目に
- i. さりげなく
- j. 相互理解 ⇒ つながる思い

熟議が大事！

本気になった大人が増えると、学校が変わる、子供が変わる！
 (自分たちの力で学校をより良いものにしていこうとする意識)

- ◆ 国民一人一人が教育の当事者となり、社会総がかりでの教育の実現を図る
- ◆ 新たな地域社会を創り出し、生涯学習の実現を果たしていく

⇒ **持続可能な 新たな 地域社会を 創る**



令和3年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【中学校の部】 まとめ

パネルディスカッション

テーマ：生徒の健全な育成、安心・安全の学校・地域をめざして

コーディネーター：文部科学省CSマイスター 大谷 裕美子 氏

パネリスト：御坊市立御坊中学校 校長 小谷 剛史 氏

岩出市立岩出第二中学校

コーディネーター 松田 晃作 氏

湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあぐる」

代表 上田 さとみ 氏

参加者：会場 15名
オンライン 40名



小谷氏

- ・生徒指導対応で、教職員の負担が大きい時代もあった。
⇒道徳研究を通じて、地域の人が学校に目を向けていただけになった。
- ・地域の人に見てもらうのはちょっと…
⇒今は、どうぞ見てください！来てください！
「地域に開かれた学校」

松田氏

- ・CSは学校と地域、両方にメリットがなければならぬ。
- ・地域の清掃活動等の活動を通して、生徒を地域に出すこと。
⇒これを地域の大人は嫌がることは絶対ない。
- ・子供、学校、地域の課題は全部共有しようよ！

上田氏

- ・昔は学校運営が困難な時代もあったが、今は非常に落ち着いている。
⇒「何とかしなければ…」行政、教育委員会が動いた。
- ・子供の育ちを阻害する環境の改善に、学校だけではなく、行政、地域も一緒になって解決に向けて考えた。
- ・家庭教育支援チームと学校の情報共有を確実に！

- ・魅力ある学校を創りたい。
- ・公民館に近いものを学校でできたらいいと考えている。
- ・生徒が生き方、生き様を考えられるようなCSに。

- ・学校運営協議会の熟議の中で、何かいいアイデアが生まれてくる。すぐに成果は出ないが、徐々にやっていく。
- ・地域はCSに対してやりがいを持って取り組んでいる。

- ・CSも家庭教育支援も目的は同じ。
- ・学校だけで解決できない問題はある。行政の動きはとても大切である。
- ・地域人材はどの地域にもいる！

- ・「わが町のCSに！」⇒熟議を中心に学校運営協議会を成熟させていく。
学校任せにしない。行政の伴走支援も必要！
- ・学校運営協議会が成熟するためには、子供を学校運営協議会に入れるのも1つの手。
- ・今こそ、地域の人を巻き込んで、地域にカリキュラムを作っていく！

令和3年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【高等学校の部】 まとめ

日時：令和4年3月5日（土）13:00～16:00 参加者：会場 42名
場所：県立情報交流センターBig・U オンライン 8名
テーマ：「地域とともにある学校づくり 学校を核とした地域づくり
～校種で地域を考える～」

基調講演「コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校づくり」

文部科学省総合教育政策局CSマイスター
神奈川県立総合教育センター教育相談専門員
元神奈川県立市ヶ尾高等学校長

増淵 広美 氏

1 はじめに

2 学校運営協議会の機能を生かす

- ✓ 時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化
⇒学校と地域の連携・協働が必要とされている。
- ✓ 「何を」やるかではなく「なぜ」やるのか
⇒人の心を動かすには、このなぜが大事
- ✓ 学校運営協議会を存分に生かすために
⇒高校にコミュニティ・スクールが必要！
- ✓ 「学校評議員会」から「学校運営協議会」へ
ポイント・委員の選定（本当に動けるふさわしい人）
 - ・熟議の活性化（時間の半分を1つのテーマで協議）
 - ・協働によるアクション（熟議したままにしない、具体化する）
 - ・マネジメント（PDCAサイクル、学校運営協議会の自己評価）



3 市ヶ尾高校の実践から

- ✓ 平成29年本校を含む21校をコミュニティ・スクールに指定（累計26校）
 - ・市ヶ尾高校学校教育目標
「社会の変化に対応する資質・能力を育成する」
⇒ **学校だけではできない。**

これからの社会に通じる本物の力を育みたい



コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校づくり

✓学校運営協議会のポイント

- ・「年度当初に学校運営協議会の年間開催日程を設定」 ☎おススメ
⇒調整業務の削減、出席率の上昇
- ・工夫したこと
毎回**1テーマの重点化、委員長と事前打ち合わせ**

✓熟議（平成30年第3回学校運営協議会）

テーマ「防災教育・防災活動の充実」・・・**防災意識の高い生徒から問題提起**
避難訓練で**生徒による防災講話**

↓
生徒たちが自走する → ・地域の防災訓練に参加
(当事者意識を持った) ・ボランティアセンター立ち上げ訓練に参加

✓コミュニティ・スクールによる効果

- 1 学校経営力の強化 ⇒ **授業評価・学校評価の改善**
- 2 教育活動の充実 ⇒ **多世代交流をととした地域課題解決型学習の実現**
- 3 学校・地域・保護者の協働の活性化
⇒ **地域から頼りにされる学校に**

4 コミュニティ・スクールの推進に向けて

✓コミュニティ・スクールになると学校の負担が増える？

- ・負担になるかは、**向き合い方と工夫次第**。形式的中途半端にやれば負担に！
- ・学校経営が、最小の労力・資源で最大の成果をあげるとすれば、
必要だと思っけていても、できなかったことが**地域との協働で実現できる**。

✓大切にしたいPTA活動

- ・おやじの会、図書ボランティア

✓推進のポイント

校外	管理職のフットワーク 「 なぜ 」を語ることで 地域の方が動いてくれた
校内	校内組織体制・・・理解と同僚性を広げる 取組の位置づけ・・・教育活動の中に明確に位置付ける ⇒総合的な探求の時間（社会に開かれた教育課程） 当事者意識の拡大・・・「 なぜ 」「 なんのために 」の共有 ⇒校長だより、職員会議、全校集会での発表 生徒の変容・成長の「見える化」

5 おわりに

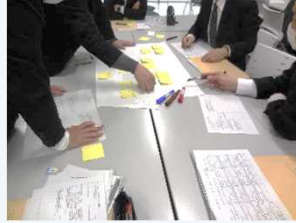
✓コミュニティ・スクールの仕組みを生かす

⇒困難を抱える子どもたちへの複層的、重層的な支援の可能性を広げれる

熟議「Let's 学校運営協議会」

- Step1 学校の状況を共有する
 Step2 「地域」と「委員」を考える
 Step3 生徒の「活動」を考える

8つのグループで熟議



育てたい生徒像
(つきたい力)

具体的な活動内容

協力者

1	地域とのつながりを強め 地域に貢献 できる	・インターンシップ ※ 地域の要望を集める必要がある	マイスターさんの要請
2	世界の中で和歌山 を考えられる人を育てる	・さまざまなコンテストへの参加 ・地域へのボランティア活動	コーディネートできる方 学校のサポーター
3	コミュニケーション能力 を磨く必要がある	・地域に興味を持つ生徒を募り、考えさせ、学校運営協議会の委員さんに、知っていただいて、地域人や企業人を紹介してもらう	学校運営協議会委員 地域人・企業人
4	自ら学び鍛える生徒 地域のリーダー として活躍	・小学校、中学校で 英語を教える ことで、地域が活性化し、地域のリーダーになれる	学校運営協議会委員に外国の方 委員の方のつながり
5	コミュニケーション力 、自己実現力	・地域の祭り、文化祭と連携 ・老人ホーム、地域清掃のボランティア	地域の公民館と連携
6	社会に適應する力	・職業感キャリア形成 ・体験授業 ・ルールマナーの指導	卒業生
7	自己肯定感 自己有用感 社会性	・小学校の運動会への協力 ・ 小学生と高校生が練習	市教委 小学校教員 自治会長
8	社会性 を育み 生き方・あり方 生きる力を育てる	・収穫期に小中学生を招き一緒に収穫 ・ボランティア活動の機会 ¹ で交流を深める ・品評会、文化祭と兼ねた地域交流	地域、観光 PTA、卒業生

熟議後の講評（講評者：増淵氏）

1 講評

皆さんの熱気が素晴らしい。「**どんな力を、何のために**」を軸にして**どんな風に、どんな活動**をしたらいいのかを考えられていた。

すでに実施している活動があるという話。
⇒「**なぜ**」に照らして考えてみるのもよい。また、**生徒が考えるのもよい**。

生徒が企画の段階から、考えられる場を数多く作ることが大事。**生徒にはそういう力が必ずあります**。



小中学校とかかわり、高校生が教へに行くことは、**高校生にとっても自信になる**。小中学生からは**憧れになる**。その姿を見せることはとても素晴らしい。**地域の力にもなる**。

コミュニティ・スクールの結果はすぐにはでない。
⇒コミュニティ・スクールって漢方薬、特効薬ではない。
コミュニティ・スクールを皆さんが育み、**バトンを繋ぐもの**。
今できる事をして、大きな変化、大きなうねりを作って欲しい。

2 委員の選定（市ヶ尾高校の事例）

- ✓**企業関係者に入ってもらおうようにした**。生徒も若手教諭も刺激をもらう。
- ✓「**こういう人に入ってもらいたい**」ということ、あちらこちらで言うて回る
⇒**情報が入ってくるようになった**。
- ✓**同窓会長に入ってもらった**。
⇒**同窓会は愛がある、たくさんの宝がある**。
- ✓**企業関係者に入ってもらったが、人材が地域の人**にいたことで、**地域コミュニティとテーマコミュニティの委員のバランスが取れた**。

3 熟議

これからの**高校生には熟議の文化も必要**。学校の文化としてお勧めしたい。

4 次のステージへ

- ✓**学校運営について熟議をし、それぞれの立場を担いながら動く**。
- ✓**社会に開かれた教育課程、共に考え共に作る**。

5 コロナになって

- ・正義にかなった**非平等の正当化**
校長だけで決めにくいことも、**学校運営協議会で話されたものであったら、家庭も地域も学校もみんなの理解の中で成り立つから実現できる**。

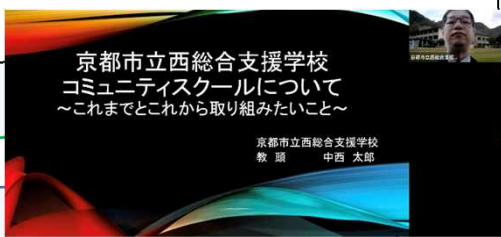
◇地域みんなで子供たちの未来を考えるワークショップのすすめ
文科省のHPからダウンロードできます。

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/school/detail/1366266.htm)

令和3年度きのくにコミュニティスクール推進フォーラム【特別支援学校の部】 まとめ

日 時：令和4年3月5日（土）13:00～16:00 参加者：会場 16名
 場 所：県立情報交流センターBig・U オンライン 9名
 テーマ：「地域とともにある学校づくり 学校を核とした地域づくり
 ～校種で地域を考える～」

基調講演「京都市立西総合支援学校コミュニティ・スクールについて
 ～これまでとこれから取り組みたいこと～」
 京都市立西総合支援学校 教頭 中西 太郎 氏



コミュニティ・スクールの具体的内容の前談として、

平成16年度 京都市の養護学校再編
 平成19年度 法改正で、養護学校→特別支援学校に
 （京都市では、総合支援学校に）

- ☆「総合性」「地域性」
- …障害の種別によらない、居住地により近い学校の選択が可能に！
- 子供たちは卒業後、居住地での生活が基本となる。

学校教育目標を拠り所として、**どんな子供（人）に育てほしいのか**を考える。

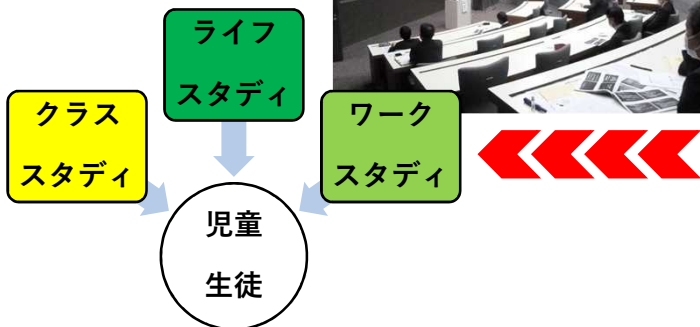
- ・「できる」存在 ←できる状況や手立て
- ・「地域に生きる一人の生活者」 ←学校だけで完結しない

そのゴールに向けて、**コミュニティ・スクールの仕組みを活用！**



「うまくいった時の喜びを知ってしまったら、やめられない！」

西総合支援学校では、



のスタイルをベースに、京都方式CSを活用



※コミュニティ・スクール通信@京都2020令和2年4月発行より引用

西総合支援学校運営協議会は、

平成17年6月18日設立（特別支援学校としては日本初）

これまでに65回の会議を重ねるが、ここ2年はコロナ禍により、多くの活動がSTOP



ただ立ち止まるのではなく、教育活動や行事を見直す機会に！

総合支援学校ならではの**“特色を出せる”**学校運営協議会委員の人選
京都方式CSに準じた、**“部会（企画推進委員会）”**の活用



工夫は
無限！

学
校
運
営
協
議
会

キャリアアップ支援プロジェクト

地域とともにプロジェクト

学校評価・管理プロジェクト



学校運営協議会設立当初から大事にされてきたこと

地域とともにプロジェクト

◎ **ローカルコミュニティ**

学校のある地域コミュニティ

- ・芝生まつり（@西総合支援学校）
- ・校区地域交流会（@西総合支援学校）
- ・サマースクール（@西総合支援学校）
- ・ボランティア養成講座（5回）
- ・啓発リーフレット作成（部会とPTAのコラボ）
- ・地域資源プロジェクト（@地域施設）

子供の居住地コミュニティ

- ・放課後の居場所づくり（@地域の小学校）
- ・サマースクール（@学校等施設）
- ・放課後の居場所づくり（@福祉施設）
- ・大学の地域貢献を絡めた居場所づくり（@大学）

◎ **テーマコミュニティ**

教育・子育てなど共通するテーマに集うコミュニティ

双方向の援助 &
新しい地域づくり

これからの学校運営協議会のキーワードは、「**オンライン**」 「**馴染み**」

- ・学校運営協議会委員による校歌の手話動画を配信
- ・桂坂人材バンク構想
- ・福祉事業所 など



双方向のつながりを重視！



実践発表「進化！深化！新化！コロナ禍での挑戦（実践）」
和歌山県立紀北支援学校 教諭 芝 大也 氏

紀北支援学校は、

県内12校ある特別支援学校のうちの1校
 知的障害・肢体不自由の児童生徒が通学

目指す紀北の子供像

「やさしく 明るく たくましく」

▶▶▶ 小中高共通、滑らかな接続に向けて



「進化！深化！新化！コロナ禍での挑戦（実践）」

和歌山県立紀北支援学校
 高等部 主事 芝 大也

今回の実践発表では、高等部の作業学習の取組とCSの関係に特化！

- ・学校運営協議会委員が**作業学習を見学**する機会があり…

▶▶▶ **頑張っている。商品として考えたときに厳しいかも…**

▶▶▶ **学校運営協議会を活用し、地域とのつながり**を作る。**ロゴマーク**
「高等部作業学習チャレンジ」



- ・今年度は、**販路の拡大、地域の小学校へメダカの贈呈**などの新規事業もあり！

▶▶▶ **POINT**
成果を、学校運営協議会で共有し、PDCAサイクルを回し続ける！

熟議「子供が輝く特別支援学校の地域連携 ～地域つながりマップ大作戦!～」

- ①エリアコミュニティ（ローカルコミュニティ）、テーマコミュニティといった地域の捉え方を踏まえ、できていること（Keep）、課題（Problem）、課題解決に向けてやりたいこと（Try）を熟議する！
- ②可能な方は、Tryを記入する！
- ③Tryで、地域つながりマップを作成！



近隣校との
共同学習・授業研究

エリアコミュニティ (ローカルコミュニティ)

ものづくり等における製品
地域販売・販路の
さらなる拡大



学校(子ども主体)のワークショップを開く → 地域の高齢者の方々中心 → 子ども達の自信(つながり)・地域発信となる



子供の居住地域

学校のある地域

地域の方との(学校所在地を中心として)
学びと交流の機会の
推進

地域にむけて打て出る
山の上の学校を知ってもらう
フェスティバル(10周年)
で地域の人々を学校へ
呼び込む。

防災と校とは地域連携
・学校・保育所・作業所と義勇
役場と連携した合同避難
訓練 (承取人病院基上)

作業学習を通して地域
の小学校へ教材提供



この学校があれば
地域のプラスになるよ
と、地域の人に見てもらって
地域の人と合同の防災訓練(水害と地震の2種)
・学校に避難できる → 2階で1日過ごせる
BCLDPP
・普段からの交流・十分な確保



テーマコミュニティ

- ・「そうじ」をひとつのテーマとして、集うコミュニティづくり
- ・「オンライン」をひとつのテーマとして、事業の拡大

(課題) 県立学校と地域との
↓
仕掛け
↓
そうじ(地域)へ

「コロナ禍で顔も合わず
交流が難しくなりました。
学校や集HPEを活用した
ネット販売できずか?」

感想 (ほんの一部)

地域で住んでいる方が一緒になってワイワイガヤガヤ(インクルーシブ)になったらいいな。基本は身近な地域。地域づくり。一番接する機会のない子供たちのことを知りたかった。(地域の方から)

農業、産業などヒントはまだまだある。いかにつなげられるか。(教職員の方から)

質問

学校運営協議会の委員
の方をより主体的に積極的に
学校運営に参画してほしい。
(先ほどの校長講話で委員
は3年) 人選は大変です。



- ・部会の採用
- ・目に見える形での取組
- ・教職員とつなぐ機会の創出